

1 今年度の取組状況と取組目標に対する自己評価

自己評価の基準：【A】 十分達成できた 【B】 概ね達成できた 【C】 あまり達成できなかった

今年度の取組目標	具 体 的 な 方 策	今 年 度 の 取 組 状 況
学習指導 義務教育段階の学び直し、基礎・基本の定着から大学受験等まで、様々な生徒個々の進路希望を叶える学力の向上を図る学習支援体制の確立 【B】	① 生徒の理解度に合わせた教材や学習支援を工夫し、進路実現に向けた学力の向上を図る。 ② 外国籍等日本語を母語としない生徒への日本語習得の支援のため、ルビ振り教材を準備するとともに、国際理解教育を通じて日本国籍生徒との相互理解を深める取り組みを進める。	① 分かる授業を目指してプリントやワークシートなど教材の精選と更なる工夫、デジタル技術の利用による生徒の学習活動の視覚化やオンライン授業の実施を進めた。 しかしながら、授業理解度は81.3%であり、前年度より4.4ポイント降下した。生徒の興味関心を引き出す授業改善に取り組む。具体的には、一人一人に対する個別最適な学びに向けたICTの利活用や一人1台端末の利用を促進する。 ② 日本語の理解に困難を感じている生徒が10名程度いるため、授業中のプリント、HRでの配布プリント全てにルビ振りを行った。授業開始前の日本語補習授業を毎日実施した。参加者は平均して2～3名程であった。
進路指導 キャリア教育の充実による進路意識の高揚と将来設計の明確化 【B】	① 生徒が主体的に将来設計に取り組むための進路行事の内容充実を図る。 ② 各種検定の実施など、スモールステップで進路意識を高める取組を充実させる。 ③ ハローワークとより密接に連携し、キャリア教室の実施や就職希望者の模擬面接、企業見学、採用試験受験の支援などの取り組みを進める。	① 適性検査の実施や職業能力開発センターへの体験訪問など、生徒が自分で考える機会を多くつくるキャリア教育を実施した。キャリア教室以外の取組についても充実させた。進路指導についての生徒の満足度は昨年度に続き90%以上となった。 ② 日本語検定や受験指導のための夏期講習・放課後の補講を延べ昨年度と同様に200時間以上実施した。卒業生の進路決定率は71.4%と前年度より28.6ポイント降下した。 ③ 上級学校進学の手導を中心に、生徒の希望に沿う形で進路指導を行い、4年生1学期中に進路を決められた。
募集・広報活動 本校に入学を希望する中学生等の	① 不登校だったり学び直しを考えたりしている中学生、外国籍など様々な人に本校の存在を知ってもらう広報活動を行う。	① 学校説明会に来校する中学生や保護者の数が合わせて12組20名であった。

増加 【B】	② ホームページや学校案内を通じて広域通信制にはない夜間定時制のよさを発信する。	② ホームページを年50回以上更新した。学校案内はレイアウトを刷新し、より見やすい紙面にするとともに、多様な人に対応するためにルビ付きで作成した。学校案内を夜間中学校、フリースクール等に送付した。
生活指導 活気にあふれ規律ある学校生活の確立 【A】	① カウンセリングスキルを駆使し、深い生徒理解に基づく良好な人間関係を形成する。 ② 主体的な学校生活の実現のため、生徒会活動などの自主的な運営を支援する。	① 週1回の情報共有会、月1回の教育相談推進委員会を開催し、SC・YSW等と連携して、生徒の相談活動を行った。専門医派遣事業や教育支援心理士とのケース会議を重ね、個に応じた支援を行った。 ② 第1学年「人間と社会」においてグループエンカウンターを2回、社会的自立支援プログラムを5回実施し協調・協働の理解を深めた。スポーツ大会や学校行事を生徒会主体の企画運営とし自立心を育成した。部活動はバスケットボール部が大会に出場した。
保健指導・給食指導 健康的な生活習慣の確立と正しい食の知識に基づく食習慣の改善 【A】	① 栄養バランスのとれた食事を摂取することで、健康増進や衛生環境の向上を図る。 ② 生徒情報を全ての職員間で共有し、協働的な教育相談体制により健康管理を行う。	① 給食メニューと同時に季節の話題や衛生に関する情報を掲示した。各自での予約制とした。喫食率は75%であり、昨年度より25ポイント向上した。 ② SCによる全員面接を時間をかけて丁寧に行った。またYSWとも協働し、生徒の面談を適宜行い、心身の健康管理に努めた。集約した生徒情報は情報共有会や教育相談推進委員会を通じて全教員により共有した。
学校経営・組織体制 生徒の自己実現の支援に全力を傾注する学校運営の組織的な展開 【A】	① 分掌・学年組織の連携、経営企画室との連携により、校内の組織的な教育力を高める。 ② 情報の共有に努め、生徒支援策を様々な工夫し実践する。	① 年間行事の策定及び運営や日常の部活動・生活指導において、管理職と分掌主任の指導・助言の下、担当教員が経営企画室との連携を深め、予算の範囲内で可能な活動について打合せを随時行っている。 ② 今年度も生活指導において学年と分掌の連携を深め、有機的な生徒指導を行うことができた。また全教員が職員会議や生徒登校前の打合せ等で個々の意見を突き合わせることもできた。

健康で明るい職場づくり 教職員が心身共に健康を維持できる同僚性の高い職場づくり 【B】	① 計画的な業務の進行管理による効率化でライフ・ワーク・バランスを実現する。 ② メンタルヘルスの維持に努め、何でも相談でき意見を言うことのできる職場をつくる。	① 各分掌の業務でベテランと若手が協力して取組を実施している。分掌部会等を毎週行い、業務の進行管理と業務量の配分調整を行った。業務全体の縮減を図った。全員が年次休暇15日以上、夏休5日を取得した。 ② 年3回の自己申告の面接において、個々の業務の概略を把握し、課題について意見聴取を行った。
--	--	---

2 数値目標と達成数値

数値目標	達成数値
○ 授業に関する自己評価を100%に ○ 教員の授業に対する評価を生徒95%保護者80%に ○ 行事参加率を85%に ○ 進路決定者を100%に ○ 進級率を85%に	○ 84.4% ○ 生徒71.9%、保護者90.9% ○ 81.3% ○ 71.4% ○ 100%

3 次年度に向けた課題と対応策

本校の目標である、多様な生徒に基礎的・基本的な知識や技能の定着を図り、実社会で生きる力を育成するため、日常の取組を行っている。自己評価を【B】とした項目を中心に、次年度に向けた課題と対応策を以下に示す。

学習指導において、生徒の理解度向上と学習意欲を引き出す工夫が必要である。来年度は、一人1台端末が全学年での実施となるため、個別最適な学習に向けたICT利活用を促進していく。特に、全教員がICTを利活用した授業を実施し、生徒が一人1台端末を使用する環境を整備していく。

進路指導において、今年度の進路未定者2名は「進学準備（いわゆる浪人）」のためであり、進路未決定の理由は前向きである。しかしながら、1年生に入学した段階から卒業後の進路に向けたキャリア教育をより充実させることで、大学進学に向けた準備を生徒に促すことが可能である。来年度は、1～3年生のキャリア教育の充実と4年生の進学希望者、就職希望者への進路指導の充実に取り組んでいく。

募集・広報活動において、学校ホームページの更新回数の増加、正門の掲示板を活用等の広報活動を行っており、学校説明会に参加する方は増加している。その結果、今年度の入学希望者は昨年に続き10名以上となった。また、入学後に支援が必要な生徒の割合も高くなっているため、学校説明会等において「学校としてできることとできないことの明確化」を行い、本校入学後の目標が明確な生徒募集に力を入れた。来年度も本校定時制課程で目標をもって自立して学ぶことができる生徒の募集活動を行う。

健康で明るい職場づくりでは、休暇の取得率は高く、ライフ・ワーク・バランスとしては充実している。業務内容については、行事の精査として遠足の合同実施を行い、教員の負担を軽くした。来年はさらに業務内容や役割分担等の見直しを行い、分掌や担任での負担感の偏りをなくし、職場内の風通しを良くする。